

艦これピクトリアル モデリングガイド

『艦これ』提督のための
艦船模型ガイドブック

Fleet Girls Collection
KanColle



C2 桜 関

Contents Communication Architecture

モデルグラフィックス & ネイビーヤード編集部 / 編



KanColle Pictorial Modeling Guide "BB YAMATO"

Visual Reference of IJN Warships for KanColle "Admirals"

艦これピクトリアル モデリングガイド

大和編

『艦これ』提督のための艦船模型ガイドブック

モデルグラフィックス&ネイビーヤード編集部/編

Fleet Girls Collection
KanColle



大日本絵画

©DMM / C2 / KADOKAWA

目次 CONTENTS

大和は撫子七変化!? 即戦即応をとげたその姿とは?	04
どんなキットがある? 戦艦大和キットリスト	07
戦艦大和の搭載兵装を模型でチェック!	08
1/700 戦艦大和	
タミヤ ウォーターライン	10
フジミ 特シリーズ	14
フジミ 艦NEXTシリーズ	18
青島文化教材社 フルハルモデル	22
ビットロード スカイウェブシリーズ	24
ポントスモデル	28
1/500 戦艦大和	
フジミ	32
1/450 戦艦大和	
ハセガワ	34

1/350 戦艦大和	
タミヤ	36
ベリーファイア	40
ポーターモデル	44
1/200 戦艦大和	
モノクローム	48
天一号作戦 大和に随伴した第二水雷戦隊	52
第二水雷戦隊旗艦 矢矧	54
第41駆逐隊 冬月 涼月	56
第17駆逐隊 雪風 浜風 磯風	58
第21駆逐隊 朝霜 霞 初霜	60

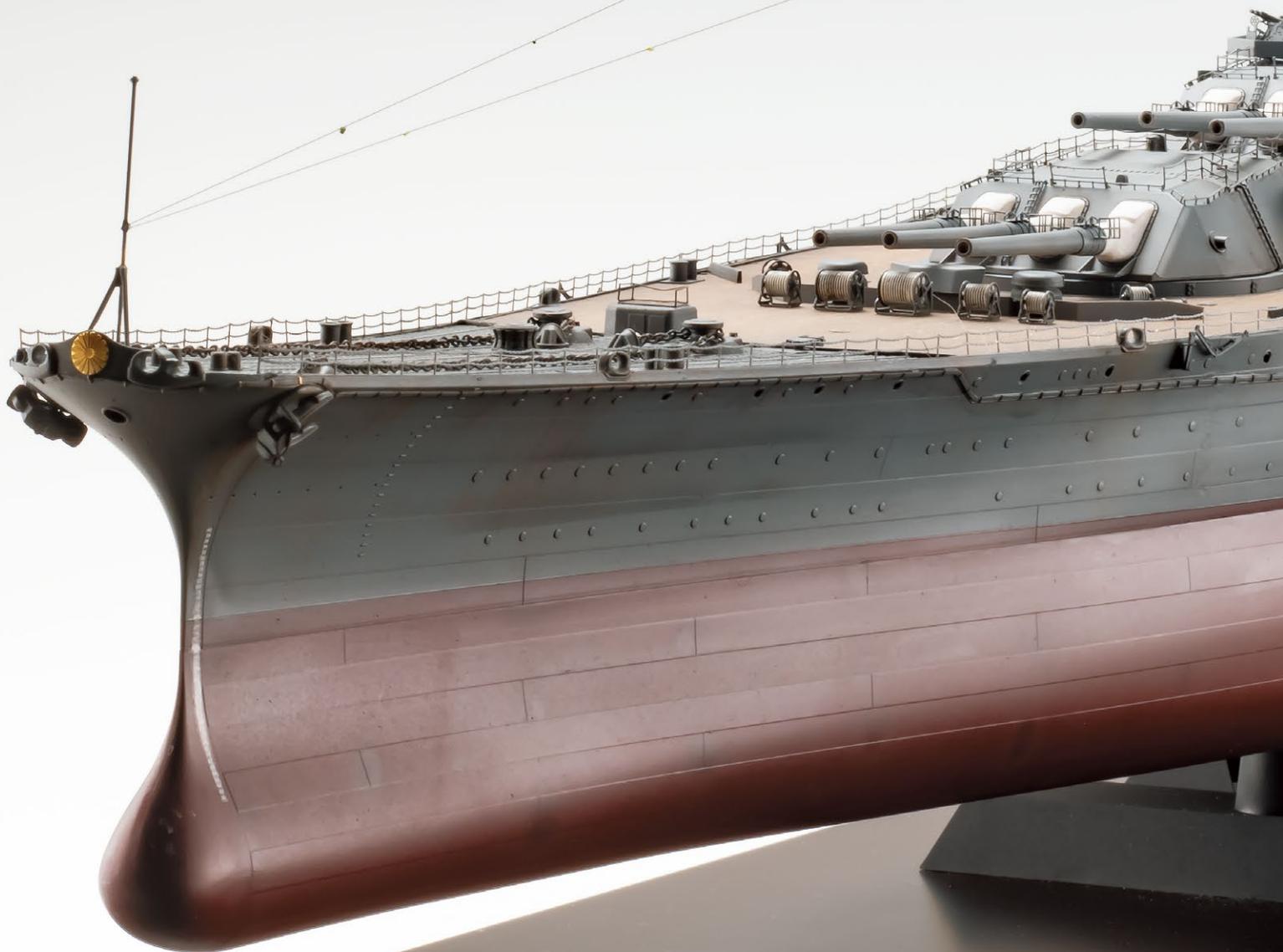
KanColle Pictorial Modeling Guide "BB YAMATO"

Visual Reference of IJN Warships for KanColle "Admirals"

艦これピクトリアル モデリングガイド

『艦これ』提督のための艦船模型ガイドブック

大和編



『艦これ』ピクトリアルモデリングガイド』は、オンラインゲーム『艦隊これくしょん-艦これ-』に参加している提督の皆さんに、艦娘のモチーフとなった実艦の模型を紹介するシリーズです。

本書では、絶大な人気を誇る戦艦「大和」をテーマに、各メーカーから発売されている、2025年現在で比較的入手が容易な1/700～1/200スケールまでのインジェクションプラスチックキットの作例をご覧ください。艦船模型を購入する際の参考として、また純粋に作例をお楽しみいただければ幸いです
(編集部)

本書で紹介した商品の値段は2025年6月時点の税込価格です。
商品によっては流通在庫のものもあります。また模型写真は製作者による塗装やディテールアップが施されています



日本海軍の超弩級戦艦、いつどんな兵装だった？

大和は撫子七変化!?

即戦即応をとげたその姿とは？



日本海軍が建造した「大和」は史上最強の戦艦として、また均整の取れた機能美ともいべきデザイン、そして悲劇的な最後を迎えたことでも今も人の心を掴んで離さない。その模型を作るときには、新造時や戦中時々で異なる姿からどれを作るか選ばなければならない。ここでそのポイントとなる時期と違いについて整理しておこう

●昭和16年10月10日、竣工に向けての終末公試中の戦艦「大和」。写真が少ない同艦にとって、まさに「大和」といえばこれ！な写真。艦橋の測距儀には21号電探はなく、中央構造物の両舷には15.5cm三連装副砲も搭載されたまま。まさに浮かべる城といったところだが、戦局の推移によりさまざまな変幻を見せることとなる

戦艦「大和」の武装の変遷 ポイントとなる時期は5つ

日本海軍の戦艦「大和」といえば、“史上最大の戦艦”や、“最強戦艦”という呼び声も高く、今や老若男女にまでその名が知れ渡った存在である。

本書はその「大和」の模型のうち、現在において手に入りやすい1/700から1/200スケールまでのインジェクションプラスチックキットを紹介するものだが、その冒頭にあたり、時期ごとにどのような姿をしていたかについてを整理しておきたい。

戦艦「大和」は呉海軍工廠で建造され、1941年秋から終末公試に入り、太平洋戦争開戦後の12月16日付けで竣工引き渡しとなっている。

この時の姿が竣工時、あるいは開戦時と呼ばれるもので、当初の設計時のままの姿をした状態といえる。

その後、連合艦隊旗艦となって本土近海にあった「大和」は、1942年6月のMI作戦（ミッドウェー海戦）に主隊として参加したのち内地へ帰還。8月にガダルカナル島を巡る戦いが始まると、トラック泊地へ進出して麾下部隊の指揮を取った。

1943年2月に姉妹艦「武蔵」がトラックへ進出し、旗艦の座をこれに譲ると、5月に内地

へ帰還。同月中に22号電探を搭載、7月に21号電探を搭載するなどして8月に再びトラック等へ進出した。

この時の状態が第2次トラック在泊時ともいべき状態である。

同年12月17日に陸軍兵力を輸送するため横須賀へ帰還した「大和」は、20日に横須賀を出港すると、25日に米潜水艦による雷撃で魚雷1本が命中。同日トラックに入稿すると応急修理が実施されて、1月15日に内地へ帰り付き、本格的な修理が実施された。

その際に、以前から指示されていた、中央構造物左右の15.5cm三連装副砲2基を撤去し、高角砲座を増築のうえ、12.7cm連装高角砲や25mm三連装機銃と同単装機銃を増備する工事が実施された。

これが1944年6月までのマリアナ沖海戦時と呼ばれる状態となる。

マリアナ沖海戦から内地へ帰還した「大和」は慌ただしく25mm三連装機銃を増備してリング泊地へ進出していく。これが1944年10月のレイテ沖海戦時と呼ばれる状態だ。

そしてレイテ沖海戦後に内地へ帰還した「大和」は25mm単装機銃を多くを撤去して、25mm三連装機銃を増備する。

これが天一号作戦／沖繩水上特攻作戦時、あるいは最終時と呼ばれる状態である。

戦艦としての絶頂 「大艦巨砲主義の権化」な新造時

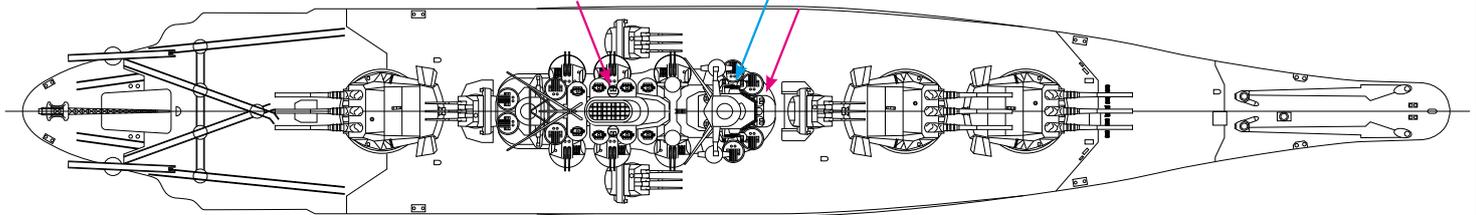
それではここからはそれぞれの時期の様子と細かな推移について見てみよう。

先ほども述べたように竣工時／開戦時の「大和」は図1で示したもので、現在の、対空兵装が強化された姿を見慣れた目には、余分なディテールが省かれた、いたってシンプルといえるたずまいである。対空兵装は自艦の主砲を発砲する際の爆風から守るため、八九式12.7cm連装高角砲も九六式25mm三連装機銃もすべてシールドに収められていた。

シールド付きの高角砲や機銃は、航空母艦でも煙突の後ろに配置されているにもみられるのだが、これらは煤煙避けの覆いにすぎず、「大和」のものは主砲発報の爆風に耐えられるよう独自設計されたオリジナルデザインなので注意されたい。

これら25mm三連装機銃は、艦橋と煙突部に設けられた射撃指揮装置によって管制射撃がなされた。

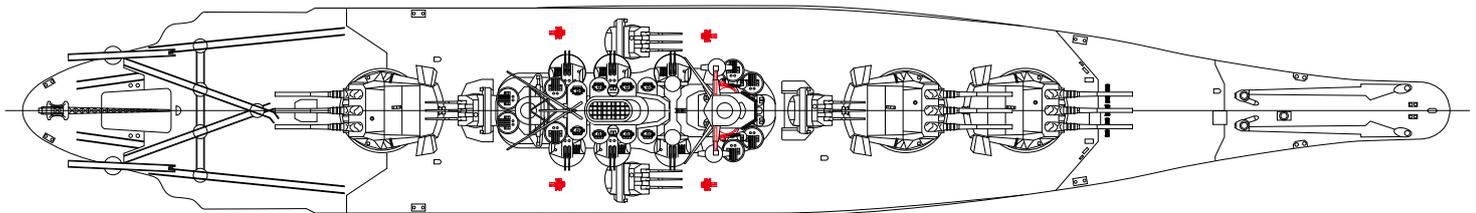
なお、艦橋中段の左右には九三式13mm連装機銃が1基ずつ搭載されている。これは艦橋を銃撃にくる敵戦闘機対策であったが、装備位置が高いためか爆風よけなどの工夫はなされていない丸裸の状態で、これは最終時まで変わらない装備であった。



■図1：竣工時／開戦時
1941～1943.4頃まで

▲対空兵装が強化された姿を見慣れた目には、新造時の「大和」の姿はいたってシンプルに見える。それでも爆風避けのシールドに収められた八九式12.7cm連装高角砲6基は戦艦としては強力（この当時のほかの戦艦は4基搭載が標準）なもので、蒼龍型空母と同等であった。艦橋と後部艦橋の

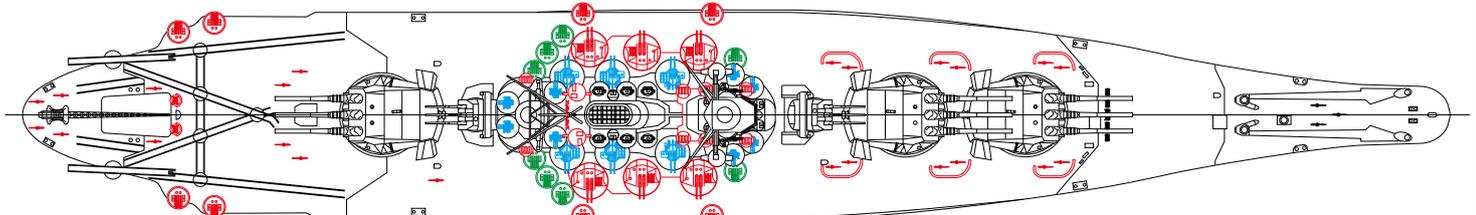
周囲に配置されたシールド付きの九六式25mm三連装機銃8基は機銃射撃指揮装置（赤紫矢印）により管制射撃されるようになっていた。このほか、艦橋中段に九三式13mm連装機銃（青矢印）が搭載されており、これは最終時まで変わらなかった



■図2：第2次トラック進出時
1943.5～1943.7以降

▲ミッドウェー海戦後、トラック泊地（現在のミクロネシア諸島チューク）に進出した「大和」は、1943年2月に同所へ進出してきた「武蔵」に連合艦隊旗艦の座を譲った。竣工時からこの頃までの兵装の変化はなかったが、1943年5月に内地へ帰還した際に2号電波探信儀2型（略称22号電探）

を艦橋左右に搭載。そのまま内地にいた7月に、艦橋の測距儀を利用して対空用レーダーである2号電波探信儀1型（略称21号電探）を搭載し、中央構造物左右の15.5cm三連装主砲を挟むように、前後に九六式25mm三連装機銃を1基ずつ（プルワークがある説とない説がある）を搭載した



■図3：マリアナ沖海戦時
1944.2～1944.6

▲1944年2月の損傷修理の際に施された対空兵装強化後の姿。15.5cm三連装副砲が撤去され、高角砲座を増設、12.7cm連装高角砲が6基増備された。その際、爆風避けのシールドは新設のものに譲られた（新設置のものを赤、旧来のものを青で表示）。25mm三連装機銃も増備されているが、や

はり従来のものに付いていたシールドは、外側配置のものに譲られている（緑で示したものが艦橋部の機銃から移設されたシールド）。それ以外の増設三連装機銃は、シールドの背が高いものとなっているので注意が必要。射撃指揮装置も大幅に増設された。25mm単装機銃も増備されている

同じようで結構違う 第2次トラック進出時の姿

太平洋戦争の開戦時から1年半の間、「大和」の兵装は大きく変わらなかったが、トラックから内地へ帰還した1943年5月からその姿を少しずつ変えていくこととなる。

まず、5月に帰還した直後だが、昼戦艦橋（第1艦橋）の左右に張り出しを設け、2号電波探信儀2型（略称22号電探）のラッパ状のアンテナ（電磁ホーンといった）を1基ずつ搭載した。これに伴い、艦橋左右の張り出しの形状も手が加えられている。

その後も「大和」は内地におり、7月には艦橋トップの測距儀のカバーの上に2号電波探信儀1型（略称21号電探）の網目状のアンテナが搭載された。

こうした電測兵器のほか、初めて対空兵装の強化が図られたのもこの時で、中央構造物両舷の15.5cm三連装副砲塔の前後に、九六式25mm三連装機銃が1基ずつ、計4機増設された。

こうした改修を加えられた大和は、8月にな

って再びトラックへ進出し、「武蔵」とともに太平洋に睨みを利かせることとなる。

これが図2の状態である。

対空兵装強化で大幅に姿を変える 1944年6月、マリアナ沖海戦時

訓令工事というのは、あらかじめ戦訓や艦政本部における研究などから、それぞれの艦艇にたいして将来的に行なうべき改善工事を示したもので、用兵側は作戦の合間などの好機を得てその工事を実施する。

「大和」の対空兵装強化工事は、1944年1月以降、敵潜水艦の雷撃による損傷修理が行われた際に並行して行なわれることとなった。

その主なものは中央構造物両舷にあった15.5cm三連装副砲を撤去して高角砲座を設け、ここに八九式12.7cm連装高角砲を6基増備した。これにより「大和」の姿は劇的に変わっている。

12.7cm連装高角砲12基という兵装は空前絶後で、他に類を見ない強力なものである（空母「加賀」、また翔鶴型空母、伊勢型航空戦

艦で8基）。その際に、従来の個体に搭載されていたシールドは、より爆風の影響を受けやすい、新設の個体に譲られている点に注意したい。

なお、高角砲の増設に伴い、煙突後部にあった探照灯が撤去され、これを指揮する九四式高射装置に置き換えられている。

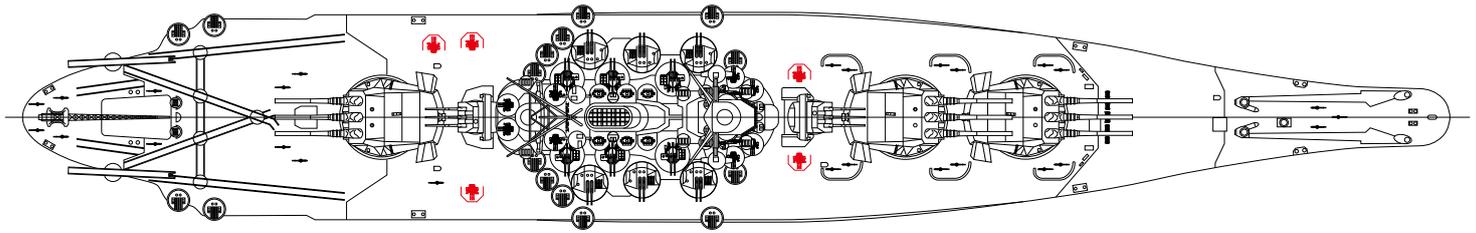
九六式25mm三連装機銃の増備にも目を見張るが、やはりこれも従来のものに付いていたシールドは、新設された外側配置のものに譲られ、従来のものはシールドなしとなっている（図3で緑で示したもの）。

それ以外の増設三連装機銃は、シールドの背が高い、別デザインのものとなっているので製作の際には取り付けを間違えないように注意をしたい。

これに伴い、射撃指揮装置も大幅に増設された。25mm単装機銃も増備されている。

なお、多くの水上艦艇はマリアナ沖海戦後に13号電探を増備しているが、「大和」と「武蔵」の場合はこの時に搭載したようだ。

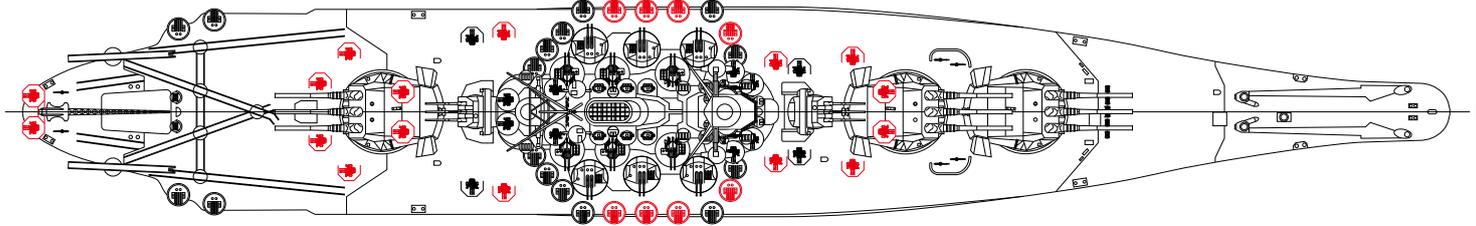
戦艦大和の武装変遷その2



■図4：レイテ沖海戦時
1944.07~1945初頭

▲マリアナ沖海戦から内地へ帰った「大和」は急ぎ対空兵装の強化を実施してリンガ泊地へ追い立てられた（燃料状況が逼迫しているため）。その際の工事記録によれば増備されたのは図で赤く示したような25mm三連装機銃5基（赤で示したのも）程度で、他艦に比べてその度合いは著しく低

いといえた。これは「大和」の場合はマリアナ沖海戦の前に充分に対空機銃の強化を行っていたとの証左ともいえよう（13号電探の搭載や単装機銃の増備は、他の艦ではマリアナ沖海戦後というのが普通）。これがレイテ沖開戦時の状態である



■図5：天一号作戦時／最終時
1945.4

▲レイテ沖海戦後、ブルネイを経て1944年11月に内地へ帰還した「大和」は、再び機銃の増備を行なった。とくに25mm三連装機銃が増備されることとなったが、シールド付きのものは従来のものとは違った戦時急増のデザインとなっている（赤で示した個体）。単装機銃の多くは削除され、新

たにシールドなしの25mm三連装機銃に置き換えられている。主砲塔上に25mm三連装機銃が増設されたのもこの時のことだ。22号電探の下側の電磁ホーンが大きくなるのもこの時である。これが天一号作戦時、あるいは沖縄水上特攻作戦時とも呼ばれる、「大和」の最終状態である

実はマリアナ沖と意外と変わらない レイテ沖海戦時

マリアナ沖海戦から内地へ帰還した「大和」は急ぎ対空兵装を強化し、追い立てられるようにリンガ泊地へ出航した。この時に増備されたのは25mm三連装機銃5基（図4で赤で示したも）であった。これは「大和」の場合はマリアナ沖海戦の前に充分に対空機銃を強化していたためといえる（例えば単装機銃の増備は、他の艦ではマリアナ沖海戦後である）。これが図4の「大和」のレイテ沖開戦時の状態である。

再び姿を大きく変えた 天一号作戦／最終時

レイテ沖海戦後の1944年11月に内地へ帰り付いた「大和」は、さらなる対空兵装の強化を実施した。

戦訓により九六式25mm単装機銃の多くは撤去され、変わって25mm三連装機銃が増備される。これが図4で、赤く示したように増設機銃にはシールド付きのものもあったが、このデザインは天井部分の外周にエッジのついた、簡易形状のものとなっていた。

つまり、「大和」の25mm三連装機銃用のシールドは3種あったことになる。

そのほか、シールドなしの25mm三連装機銃の台座は八角形か、あるいはそれを半分としたブルワークを設けていた。

なお、22号電探の電磁ホーンは、下側のラ

ップが大きくなっていた。これは戦訓による改修により、受信用を大きくしたためである。これが天一号作戦時／沖縄水上特攻作戦時

といわれる、「大和」の最終時の姿である。

実艦の改装を取り入れる妙！ 艦娘「大和」はこう装いを変えた！

本文では「大和」の兵装の変遷について5つの時期に分けて紹介したが、『艦隊これくしょん』のゲームに登場する艦娘「大和」も、「大和」と「大和改」のふたつがある（「大和改」は、51cm連装砲の超大和型なので、ここでは別物として考える）。これをよく観察してみると、艦娘「大和」は、15.5cm三連装副砲を4基を有しており、測距儀に21号電探の網状のアンテナを搭載しているの、P.5の【図2】で示した、1943年7月以降の第2次トラック進出時の状態といえる。



「大和」

「大和改」

つづいて「大和改」の方を見てみると、両脇に展開している15.5cm三連装副砲が2基となり、代わってシールド付きの12.7cm連装高角砲が6基描かれている。これは1944年1月以降、敵潜水艦から被った損傷を呉海軍工廠で修理した際、並行して行なわれた高角砲座の増設を反映したものと見える。さらに詳しく見ていくと、左右に携えた46cm主砲塔の天蓋には25mm三連装機銃とその台座が追加され、左のニーソックスには「非理法権天」と白で揮毫されているのがわかる。「非理法権天」は、室町時代の武将である楠木正成が、南北朝時代に掲げていた幟に書かれていた言葉で、「無理（非）は道理（理）に勝てず、道理は法（法）に勝てず、法は権威（権）に勝てず、権威は天道（天）に勝てない」という意味で、天一号作戦時の「大和」に掲げられて幟にも書かれていたとされるものだ。つまり、「大和改」は、実艦でいう、図5の天一号作戦時の特徴を体現したものと見える。なお、左上腕部にZ旗を思わせる腕章をしている点は共通だ。

そもそも
どんな
キットが
あるの？

戦艦大和

プラモデルキットリスト

旧日本海軍の艦艇のなかでも一番人気と言っても過言ではない戦艦「大和」だが、その人気ゆえにプラモデルキットも多数発売されている。ここでは2025年現在でも比較的入手しやすいキットに絞って、それぞれの特徴を解説。年次やスケールなど、作りたい「大和」を選ぶ参考にしてほしい。



- ▼日本海軍戦艦 大和 昭和16年/竣工時
フジミ 艦NEXT 税込4840円
- 日本海軍戦艦 大和 昭和19年/捷一号作戦
フジミ 艦NEXT 税込4840円
- 日本海軍戦艦 大和
フジミ 艦NEXT 税込4180円
- 艦NEXTシリーズは、接着剤不要のスナップフィットであることが最大の特徴。パーツが色に沿って分割されているので塗装する際にも助かるので、塗装の第一歩にもオススメ。大和型発売が2014年と考証が比較的新しいのも◎



- ▲日本海軍戦艦 大和(昭和16年/竣工時)
フジミ 特 税込4620円
- 日本海軍戦艦 大和(昭和19年/捷一号作戦)
フジミ 特 税込4620円
- 日本海軍戦艦 大和(昭和20年/天一号作戦)
フジミ 特 税込3850円
- 特シリーズは、フジミが独自に展開する比較的上級者向けの水上モデルシリーズ。同社は専用ディテールアップパーツセットも発売しているので、フィッティングに悩まずディテールアップできるのも長所



1/700 艦船模型でもっともメジャー！ コレクション性高し



- ▲日本戦艦 大和
タミヤ 税込3080円
- 暎水線より上を再現した「ウォーターラインシリーズ」で、最終時を再現。1998年当時の最新考証を反映し巧みな分割により作りやすく、迷ったらコレ！ 傑作キット



- ▲日本海軍 戦艦 大和 就役時 1941
ビットロード 税込7480円
- 日本海軍 戦艦 大和 レイテ沖海戦時
ビットロード 税込7150円
- 日本海軍 戦艦 大和 最終時 1945
ビットロード 税込7480円
- 2017年に発売と、かなり新しいキット。

ビットロード社35周年記念ということで複数の大和研究者による当時の最新考証を反映しており、今でも決定版と名高い傑作。パーツ数がかなり多く、すこしハードルは高いがキットの内容だけでも満足いく仕上がりになること請け合い。純正ディテールアップパーツもある



- ▶日本海軍 戦艦大和 1945 天一号作戦仕様
ポントスモデル 税込2万900円
- 日本海軍 大和 1941 就役時仕様
ポントスモデル 税込2万900円
- 海外メーカー発のキットで、すさまじい量の3Dプリントパーツ、金属製パーツによる精密さは唯一無二。かなりの製作難度を誇る超上級者向けのキットだ

- ▲戦艦 大和
青島文化教材社 税込3850円
- 艦底まで再現されているフルハルモデルで、最終時の姿を再現している。メーカー純正のディテールアップパーツも発売されている



1/350 「いつかは作りたい」 艦船模型のビッグスケールといたらコレ！



- ▲日本戦艦 大和 タミヤ 税込2万5300円
- タミヤが2011年に完全新金型で発売したキット。年次は定番の最終時となっている。ビッグスケールらしく、小さなモデルでは省略されてしまうような細部までしっかりと再現されているまさにフラグシップモデル。社外品のディテールアップパーツが多く発売されており、自分好みの大和を作れる



- ▲日本海軍 戦艦大和 天一号作戦時(通常版)
ペリーファイア 税込3万2340円
- 2024年に発売された海外メーカーの大和。最新考証をしっかりと取り入れている上に、考証の分かれる艦尾は2種類付属する。充分に精密なハイエンドキットだが、追加のディテールアップパーツが付属するDX版も存在する



- ▲日本海軍戦艦 大和 タミヤ 税込8580円
- タミヤの1/350大和は上記のリニューアル版が最新だが、こちらのリニューアル前のものも現行商品として販売されている。1979年発売のベテランキットだがその迫力と価格が魅力



- ▲日本海軍 戦艦 大和 1945
ポーターモデル 税込4万3890円
- こちらも2024年発売。ペリーファイア製と比べて、3Dプリントパーツを積極的に使用している。また、46cm 3連装砲は砲塔内部の給弾機構まで造形されている

1/450~1/500 ほどよい大きさ？ ディテール再現とコレクション性を両立できるスケール



- ▲日本海軍 戦艦 大和 ハセガワ 税込4950円
- スケールは1/450。全長60cm弱の大型キットながら税込4950円という破格の安さに加え、一体成型やスライド金型によってディテール再現と組みやすさも高いレベルで備える。艦船模型が初めてでも安心して製作できる、初心者にもオススメのキット



- ▲日本海軍戦艦 大和
フジミ 1/500
就役時 税込9680円
- 戦艦 大和 終焉型
フジミ 1/500
税込 1万6500円
- 全長約52cmで、迫力あるサイズと細部の再現を両立している



1/200 細部まで見える模型は圧倒的な存在感！ 究極の大スケールで大和を隅から隅まで楽しめる



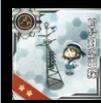
- ▲日本海軍戦艦 大和
モノクローム 税込10万7800円
- 完成後は全長1.3mにもなる特大サイズのキット。パーツ数は2800にもほり、他のスケールでは再現できないような細部の構造を楽しむことができる。また、そういった細部もオーバースケールにならずにまとまっているのもこのサイズならではの良さだ。年次は最終時を再現している



- ▲戦艦大和 九四式46センチ3連装主砲塔
フジミ 税込6380円
- 戦艦大和 九四式46センチ3連装主砲塔(増設機銃付き) フジミ 税込6380円
- 戦艦大和 艦橋 フジミ 税込6380円
- 戦艦大和 中央構造外郭 フジミ 税込6380円
- 戦艦大和 中央構造 フジミ 税込6380円
- 構造物単体で楽しめるキット。内部が再現された砲塔など単品でも飾り映える

まずは『艦隊これくしょん -艦これ-』に登場することでもご存じな戦艦「大和」の艦装(搭載兵器)を模型でチェックしておこう!

各キットの作例をご覧くださいにあたり、ここで『艦隊これくしょん -艦これ-』に登場していることで提督の皆さんにも馴染みのある艦装(搭載兵器)を模型でおさえておきたい。こうした艦装は、模型を製作するうえでもディテールアップの対象となる箇所でもあるので知っておいて損はない



「大和」外観を印象付ける
2号電波探信儀1型(21号)

水上艦艇用の対空見張り電探で、網焼き状の巨大なアンテナが特徴。「大和」といえば本電探を搭載した印象が強い。100km先の敵編隊を発見することができた



暁の水平線に目を見張れ!
2号電波探信儀2型(22号)

電磁ホーンと呼ばれるラッパを2個重ねた姿をしているのは、水上見張り用の22号電探(電探はレーダーのごと)のアンテナ。「大和」の場合は皇戦艦橋の左右に1基ずつ搭載していた



空前絶後の巨砲!
九四式46cm三連装砲

「大和」の主砲口径はアメリカ戦艦を凌駕するため46cmが選ばれた(秘重のため「九四式40センチ砲」と呼称された)。水中弾道となる九一式徹甲弾のほか、零式徹弾、三式弾と呼ばれる対空砲弾もあった



「大和」にはちょっと不向き?
九六式25mm単装機銃

25mm機銃は「大和」の新造時に煙風避け付き三連装が搭載され、1944年6月に単装が増備されたが、自艦の発砲煙風が猛烈な「大和」には不向きな装備といえ、天一号作戦時には数が減じられていた



敵のレーダー波を探知
E27電波探知機(逆探)

「艦これ」では22号電探とセットになっているE27は敵のレーダーが発する電波をキャッチして警戒として使うもの。「大和」では艦橋前面と防空指揮所側面にラケット型と呼ばれるアンテナを搭載



サイン・コサインで敵機を落とす!?
九四式高射装置

高角砲(陸軍でいう高射砲)の射撃を指揮するのが高射装置で、飛行する敵機の未来位置を算出する。九四式ではそれまで別々であった方位盤と測距離をひとつにした。大和最終時には4基搭載



小さくなって高性能を発揮！
1号電波探信儀3型 (13号)

13号電探と略称される電探（レーダー）で、1号は本来は地上設置用を指す番号。コンパクトだが21号電探に比べて高性能を発揮し、1944年夏頃から多くの大小艦艇に搭載された



探照灯照射は旗艦の矜持！
九六式150cm探照灯

夜戦において単縦陣の先頭に立つ旗艦が行なうのが敵艦隊への探照灯照射による射撃指揮。大和の探照灯は直径150cmで、新造時には8基搭載されており、対空兵装強化時に6基に減じた



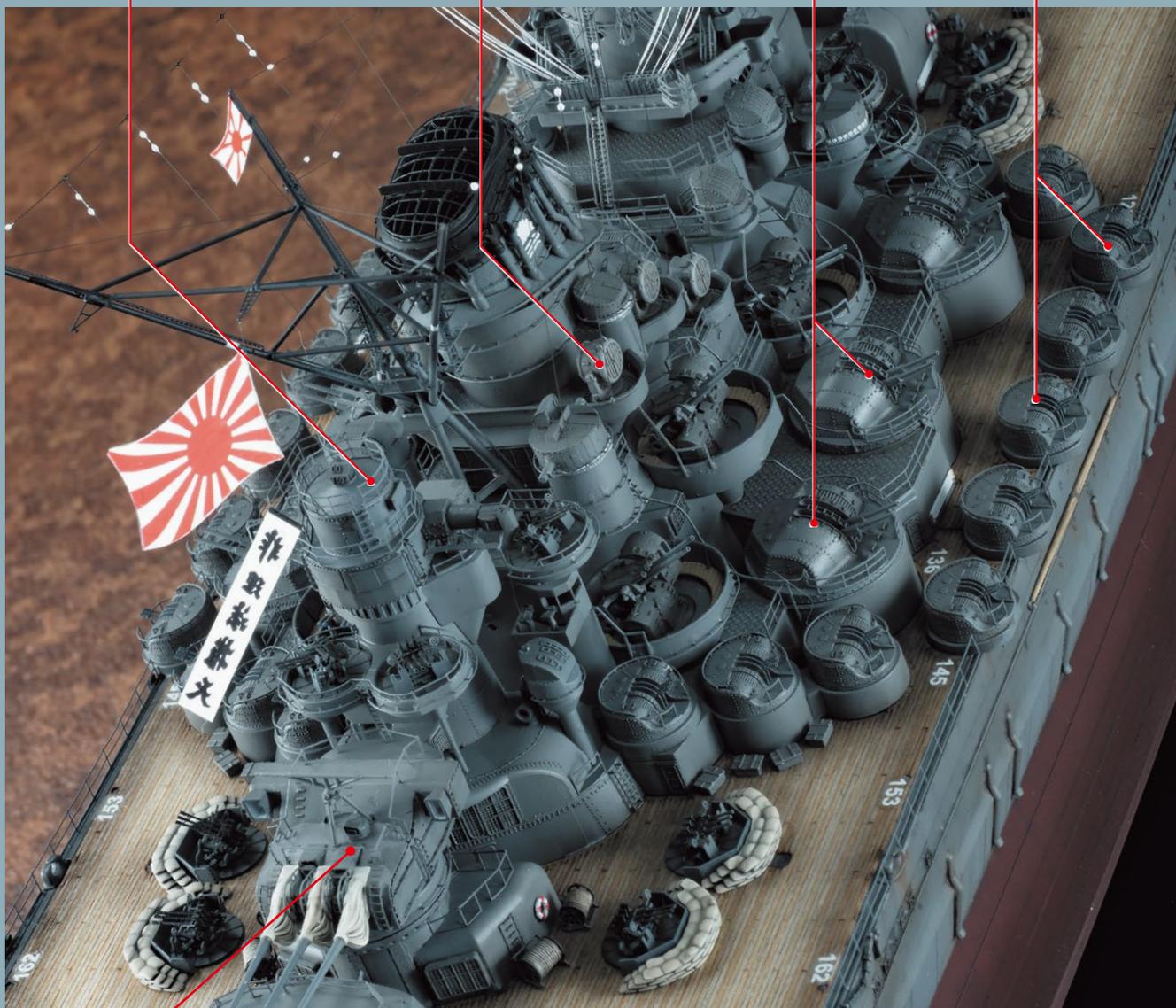
前人未到の搭載数12基！
八九式12.7cm連装高角砲

新造時の「大和」は爆風避けシールド付きの12.7cm連装高角砲を6基搭載していたが、1944年初頭に副砲を撤去し、さらに6基増備した。その際にシールドは下段の高角砲に譲られた



次々と増やされた対空機銃
九六式25mm三連装機銃

九六式25mm機銃は日本海軍を代表する対空機銃。新造時の「大和」ではすべて爆風避け付き三連装で、戦中に増備したものはシールドの形状が違う。加えて末期にはシールドなし三連装も搭載した



対空射撃が可能な副砲
三年式15.5cm三連装砲

最上型軽巡洋艦の主砲を20.3cm砲へ換装した際に取り外されたもので、砲塔の装甲は強化されている。遠距離への対空射撃も可能で、新造時には4基搭載していたが、高角砲増備時に2基に減じられた



最後の大和搭載機
零式水上偵察機一型

太平洋戦争の開戦からしばらく、「大和」は九五式偵や零戦を搭載していたが、1944年秋頃から零式水偵を搭載した。1945年4月の沖縄水上特攻作戦時に搭載していたのは本機1機のみ



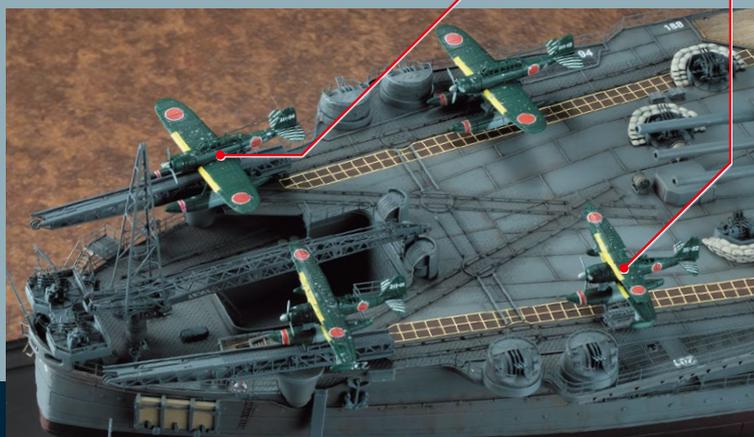
敵艦機をかわして砲戦観測
零式観測機一型

砲戦観測に特化して開発されたもので、全金属製複葉というスタイルは空戦性能を追求したため。サマール島沖海戦でその機会を得たが、すでに敵艦機に抗する力は失われていた



意外と知らない対潜装備
零式水中調音機

再現されている模型も少なく、あまり知られていないが「大和」には零式水中聴音機というソナーが艦首底部に搭載されていた。九三式調音機に比べて捕音機が30個もあり、二重に配列されていた



●大和型戦艦の艦装は、46cm砲という未曾有の巨砲が発する爆風から身を守るために、その搭載位置や形状に配慮されていたのが、他の日本戦艦と大きく違うところである。例えば、八九式12.7cm連装高角砲や九六式25mm三連装機銃にはそれぞれシールドが付けられていた。その形状は、空母搭載用の単なる爆風除けとは大きく形状を異にしている。同じく、各種の測距儀、高射装置、射撃指揮装置や探照灯管制機なども爆風避けが付いていた。1943年には中央構造物の左右にあった2番、3番副砲の前後に25mm三連装機銃が1基ずつ増備されたが、これはシールドなしである。1944年1月、敵潜水艦の雷撃による損傷を被った「大和」は2番、

3番副砲を取り除いて高角砲座を増設、12.7cm連装高角砲を6基増備するのだが、その際には爆風避けのシールドの予備がなく、それまで搭載されていたものを高角砲座に増備した個体へ譲っている。同じく、艦橋周囲の25mm三連装機銃に搭載されていたシールドも、高角砲座や舷側に増設された個体へ譲られたが、足りない分には簡易デザインとなったシールドが用意された。なお、「大和」はレイテ沖海戦後にさらに25mm三連装機銃を増備しているが、この分のシールドの形状はさらにエッジの効いた簡易デザインとなっていた。模型製作の際にこうした点に注意するとより面白みが増すといえる

帝国海軍戦艦大和 1945.04 天一号作戦時

●ウォーターラインシリーズの大和型戦艦はタミヤが担当し、現在流通しているのは1998年にリニューアル開発された2代目のキットとなる。初代のキットは捷一号作戦（レイテ沖海戦）参加時を再現していたが、2代目のキットは25mm単装機銃を撤去して、25mm三連装機銃を増備した天一号作戦（沖繩水上特攻作戦）参加時の姿を再現している。写真

の上の無塗装のものがキットをそのまま組み立てた状態。下の作例に比べて中央兩舷のシールド付き25mm三連装機銃の数が多く、主砲の周囲に配された25mm単装機銃がないのが違いと言える。逆に、ここから引き算でレイテ沖海戦時の姿にすることができるということだ



大和型戦艦一番艦大和、
対空火器を強化して
レイテ沖海戦に挑みますっ!!

発売から25年以上!
いまも色褪せることない
定番の傑作キット!!

日本海軍戦艦 大和

タミヤ 1/700
ウォーターラインシリーズ
1998年発売
税込3080円



帝国海軍戦艦大和 1944.10 捷一号作戦時

●ウォーターラインシリーズの2代目大和型戦艦は、1999年の第3次の海底探査（第1次は大和を探すのがメインで船体は発見したが「大和」と特定できず、第2次で特徴的な部分が確認され、「大和」と断定された）が行なわれる直前の1998年に発売されたキットだが、それまでに判明、あるいは検証で得られていたディテールの再現がなされており、ベーシックキットとしては打ってつけ。そのまま組んでよし、ディテールアップ

の素材として使って良しの、万能キットといえる。作例は捷一号作戦時に改造したもの。これは、キットの状態から武装配置の差し引きで簡単にできるので、発売直後から多くの艦船モデラーが取った手法だった。また、各部のアンテナや電探、艦尾の飛行機運搬軌条などのパーツは金属パーツに置き換えるなどのディテールアップを行なっているが、手ずりは再現していないので、本来の艦影が汲み取りやすい

製作／細田勝久

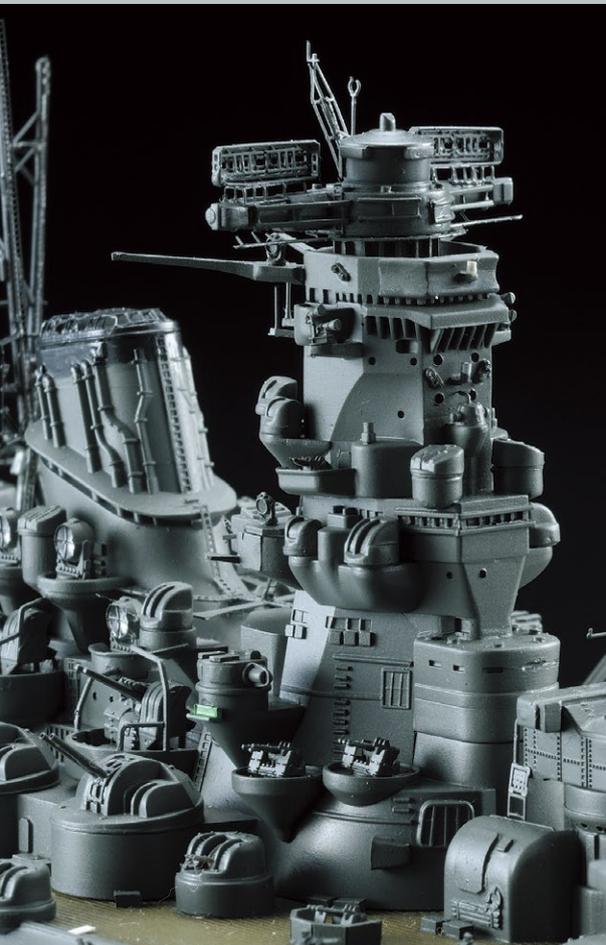
本書の先鋒を務めるのは、現在主流となっている「1/700艦船模型」という世界の創造主ともいえる静岡模型協同組合ウォーターラインシリーズにおいて、タミヤが担当する「日本戦艦 大和」。20世紀末に発売された、シリーズ2代目となるこのキット、精密再現を盛り込んだ現在の他社製品に比べてスッキリとした内容に見受けられるが、少ない部品点数で特徴ある艦影をじつによく再現した傑作キットとって間違いない。なにはともあれ、初心者は本キットを素組で完成させてから他社のキットの攻略に向かうべし！ ベテランモデラーはディテールアップの腕を見せる素体として、存分に、こねくり回すべし！！

●捷一号作戦時の「大和」は、舷側に配置されたシールド付き25mm三連装機銃が2基（天一号作戦時は5基）というのが天一号作戦時とのわかりやすい違いで、主砲の周囲には25mm単装機銃が配置されていた。キットの状態からは当該スペースに25mm三連装機銃を付けない、アフターパーツから25mm単装機銃を持ってくるなどの対応で、捷一号作戦時として製作できる（ページの武装配置図を参考にされたい）。なお、作例のように戦争後半には不沈対策のため、舷窓は丸い鉄板で閉塞されていた



●1943年12月に潜水艦の雷撃により魚雷を喫した「大和」は内地へ回航され、修理を実施した際に艦中央部両舷に装備していた15.5cm三連装副砲を撤去し、対空砲座を増築、八九式12.7cm連装高角砲6基を増備した。合わせて25mm三連装機銃も増備され、その状態で1944年6月のマリアナ沖海戦に参加。10月の捷一号作戦時にはさらに25mm三連装機銃が増備され、また露天甲板の要所に25mm単装機銃も搭載されている（後艦に13号電探のアンテナが付くのもこのとき）。

●作例はプラスチック製アフターパーツやエッチングパーツも使用してディテールアップ。21号電探やカタapult、クレーン、艦尾の空中線支柱など、ポイントを絞ってエッチングパーツに置き換えるだけで精密な「大和」を手にすることができるのだ。これも傑作キットと呼ばれるゆえんである





Imperial Japanese Navy Battleship Yamato.
TAMIYA 1/700 Injection-plastic kit.
Modeled by Katsuhisa HOSODA.

タミヤが担当するウォーターラインシリーズの大和型戦艦は「大和」と「武蔵」の2種類がラインナップされている。「大和」は天一号作戦時（最終時）、「武蔵」は新造時の姿を再現したキットで、そのため、「武蔵」のマリアナ沖海

戦時、捷一号作戦時は「大和」のキットを利用して、「大和」の新造時は「武蔵」のキットを利用して作るというのがシリーズを楽しむためのセオリーとなっている（初代のキットでも同様なことが行なわれていた）

「大和」新造時は「武蔵」から、「武蔵」最終時は「大和」から



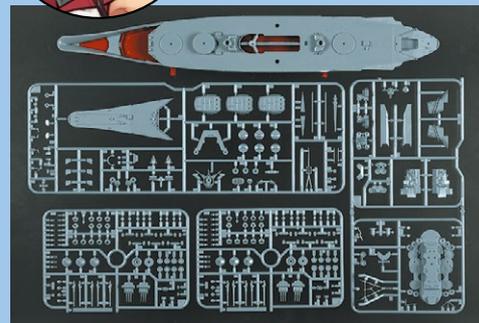
▶タミヤの「武蔵」は15.5cm三連装副砲を4基搭載した新造時の姿。「大和」の新造時～1943年の姿は「武蔵」のキットを利用して製作する



◀タミヤの「大和」をストレートに組むと天一号作戦時として完成する。「武蔵」のマリアナ沖海戦時、捷一号作戦時はこのキットから改造するのがウォーターライン流



製作性もディテールも自信のあるキットです！



◀タミヤ1/700日本戦艦「大和」のキット内容はご覧のとおり。艦橋や煙突が左右分割である以外は、構造物はほぼ一体成形となっている。最終時でキット化されている「大和」は艦装の数も多いが、こうしたプラットフォームに接着していくことでストレスなく「大和」の姿を手にすることができる

少ない部品点数で「大和」の魅力を再現！

1998年の発売ながら、いまでも第一線で通用する傑作キット

ウォーターラインシリーズは、静岡模型協同組合が、キラ星のごとく存在する日本海軍艦艇を、各社で分担することで再現しようとスタートさせた企画だったが、模型化にあたり、通常は水面下に隠れていて見えない部分を省略し、洋上模型という概念を創出し、コレクション性を高めたこともまた画期的な一面であった。

タミヤ1/700「大和」は、1998年にリニューアルされた、ウォーターラインシリーズとしては2代目。現在の目から見るとややあっさりとした印象を受けるかもしれないが、最小限に練り込まれたパーツ構成により組みやすさを実現しているといえ、船体形状や各部のディテールは当時判明していた考証をふんだ

んに盛り込まれてものとなっている。

逆に、キット開発当時のトレンドもまた色濃く反映されており、例えば艦首の平面形が細い（一部の研究者が図面に描かれた線を読み違えたことに起因し、1980年代後半から90年代前半にかけて、旧キットの左右を削り込むことが提唱された時期があった。初代キットの艦首の太さで正解だった）、艦尾に平面を持たせていることも当時の考証といえる。

複雑な表情を見せる艦橋や主砲をはじめとする構造物、艦装を少ないパーツで再現しているので、初心者にとっては説明書どおりに組み立てるだけで精悍な「大和」を手にすることができ、ベテランモデラーには足し算によるディテールアップ（ディテールは削除するよりも、追加していくほうが、切削後の表面処理などの点でも手がかからない）の素体として、現在でも重宝されている。

タミヤの2代目「大和」は、年代としては1945年4月の天一号作戦（沖縄水上特攻作戦）時の姿を再現していて、シールド付きの25mm三連装機銃がふんだんに搭載されている。ここから武装を減らしていくことで1944年10月の捷一号作戦（レイテ沖海戦）時、同年6月の「あ号」作戦（マリアナ沖海戦）時へと先祖返りさせることも可能で、これもまた多くのベテランモデラーの製作手法となっている。

もちろん、昨今充実を見せているインジェクションプラスチック製や金属砲身、エッチングパーツなどのアフターパーツで置き換えて製作することも可能だ。

いずれにしても、艦装の垂直、水平を出すためのしっかりとしたプラットフォームが必要な艦船模型における強みを持った、モデラーの技倆に合わせて製作することができる傑作キットといえる。 ■

ISBN978-4-499-23431-3 C0076 ¥3400E

定価 (本体3,400円+税)



9784499234313



1920076034008

Imperial Japanese Navy Battleship Yamato



KanColle Pictorial Modeling Guide “BB YAMATO”

Visual Reference of IJN Warships for KanColle “Admirals”

Fleet Girls Collection
KanColle



コンテンツ検閲
Contents Communication Architecture

Imperial Japanese Navy Heavy Cruiser Yahagi



Imperial Japanese Navy Destroyer Fuyutsuki



Imperial Japanese Navy Destroyer Yukikaze

